

# 筑波大学「持続的・包摂的な女性研究者支援」 ～人間の可能性と多様性の尊重 ダイバーシティ～

筑波大学は、男女共同参画社会の実現のために果たしていくべき社会的役割と責任を認識し、第3次「男女共同参画基本計画」や第4次「科学技術基本計画」に基づき、男女共同参画の推進に取り組んでいる。平成19年には「男女共同参画推進委員会設置」、平成20年には「男女共同参画推進室設置」「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念と基本方針」が策定され、平成21年には「持続可能な女性研究者支援、筑波大スタイル」が「平成21年度科学技術振興調整費（女性研究者支援モデル育成事業）」として採択され、平成24年3月まで3年間、同事業の支援を受けて環境整備に努めてきた。平成24年4月には男女共同参画に加え、他国籍や障害をもつ教職員が安心して勤務できる環境作りをめざし、「男女共同参画推進室」を「ダイバーシティ推進室」へ改編し、「ダイバーシティ推進に係る基本理念・基本方針」を定めた。平成25年3月、「筑波大学 ダイバーシティ推進行動計画」の策定、8月には「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」の採択を受け、男女共同参画・ダイバーシティ推進の環境拡充に邁進している。平成26年2月には、つくば地域を中心とした大学、企業、研究機関との連携を目指して「つくば女性研究者支援協議会」を設立し、産・官・学が協働して女性研究者の支援に取り組んでいる。

## ■ダイバーシティの推進行動計画（計画年度：平成25年度～平成30年度）

1. 大学運営におけるダイバーシティの推進
2. 教育・研究・就業と家庭生活との両立支援
3. ダイバーシティ実現のための裾野拡大
4. 教職員・学生への啓発活動の推進
5. 地域社会・国際社会との連携を通じたダイバーシティの推進

（注）「若手、女性、外国人等」とは、左記に掲げた人々のみならず、性別、年齢、国籍や障がいの有無を超えた多種多様な人々を指す。

## ■女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

### □目標

女性研究者がライフイベントと研究を両立し、能力を最大限発揮しうるよう「つくば女性研究者支援協議会」の成員である大学・企業と協働しながら、そのための環境作り及び支援活動を行う。筑波大学においては、女性教員比率を平成27年度までに18%、平成35年度に20%へ、マネジメントに関わる女性在職者率を11.5%、女性研究者採用比率を23%とし、女性研究者の研究プロジェクトや研究業績数の増加、及び女性研究者の離職率の減少を目指す。連携機関においては、女性研究者比率や管理職女性研究者比率の上昇、女性研究者の離職率の減少を図ることが目標である。

### □女性研究支援のために実施した主なプログラム

#### ①ワーク・ライフ・バランス環境支援・意識啓発連携プログラム

○研究補助者雇用支援制度・管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助者雇用支援制度の実施、○ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”の整備・運営、○ベビーシッター育児クーポンの発行、○くるみんマークの取得、○全学ジェンダー別、国籍別、教員応募/教員採用比率調査の実施、○アカデミック・メンター制度の実施、○ダイバーシティ・セミナーの実施、○ロール・モデル集の作成、○学長・副学長と女性研究者との懇談会の実施、○学長主催トップマネジメントセミナーの実施、○ワーク・ライフ・バランスに関する学群総合科目、大学院共通科目の開講、○ランチョンミーティングの実施

#### ②研究マネジメントリーダー育成連携プログラム

○研究力アップのためのセミナーの開催、○上位職への登用に向けたマネジメント力アップセミナー、○上位職への登用に向けたマネジメントスキル診断の実施

## ■その他の活動

○「発見しよう 理系の魅力！繋がろう 理系仲間！in Tsukuba～ラボ実験合宿型、リケジョ育成プログラム」の実施、○つくば男・女（みんな）のつどいへの参加、○FD研修会の実施

---

【連絡先】筑波大学 ダイバーシティ推進室 E-mail : [diversity@un.tsukuba.ac.jp](mailto:diversity@un.tsukuba.ac.jp)  
TEL : 029-853-8504 FAX : 029-853-8505 URL <http://diversity.tsukuba.ac.jp/>

## 女性研究者研究活動支援事業(拠点型)の推進

筑波大学は「持続可能な女性研究者支援、筑波大スタイル」が平成21年度科学技術振興調整費(女性研究者支援モデル育成事業)として採択され、平成24年3月まで「男女共同参画推進室」を中心に、女性研究者のライフイベントと研究両立の環境整備に努めてきました。平成24年4月には筑波大学第2期中期目標・中期計画を実現するため、男女共同参画に加え、他国籍や障がいをもつ教職員の方々も安心して勤務できる環境作りをめざし、男女共同参画推進室を「ダイバーシティ推進室」へ改編しました。平成25年3月には「筑波大学 ダイバーシティ推進行動計画」を策定し、平成25年8月に「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」の採択を受け、平成26年2月には「つくば女性研究者支援協議会」を設立し、つくば地域を中心とした男女共同参画・ダイバーシティ環境の拡充に邁進しています。

## ダイバーシティ推進のための主な取り組み



## 女性研究者支援活動のための3つのプログラム

### (A) ワーク・ライフ・バランス環境支援・意識啓発連携プログラム

- ・女性研究者の現状、ニーズ調査定期的実施と分析・改善
- ・WLB支援資源の発掘と活用
- ・研究補助者雇用支援制度の実施
- ・メンター制度相互利用とメンター育成プログラム開放の検討
- ・女性研究者の採用・昇進意識啓発シンポジウム・セミナーの開催
- ・ワーク・ライフ・バランス意識啓発セミナーの開催
- ・「くるみんマーク」取得
- ・「くるみんマーク」認定連携協力
- ・男女共同参画推進の教育科目拡充と開放 など



### (B) 研究マネジメントリーダー育成連携プログラム

- ・研究力アップのためのセミナーの開催
- ・上位職への登用に向けたマネジメントカレッジセミナー
- ・上位職への登用に向けたマネジメントスキル診断の実施 など

くるみんマーク  
平成26年4月筑波大学認定取得

### (C) 研究シーズブラッシュアップ連携プログラム

- ・研究技術情報・研究シーズ情報データベースの構築
- ・研究シーズブラッシュアップ勉強会の開催 など

## 女性研究者支援シンポジウムの開催

平成26年2月19日実施  
・テーマ:つくば女性研究者支援協議会キックオフシンポジウム2014  
「世界で活躍する女性研究者の育成と支援～産学連携を通して～」  
・「拠点型」事業の趣旨説明  
・基調講演「科学技術分野における女性の活躍推進について」  
佐村知子氏 内閣府男女共同参画局長  
・特別講演「女性研究者が日本の未来を変えていく」相馬芳枝氏  
日本化学会フェロー/産業技術総合研究所名誉リサーチャー  
・パネルディスカッション「世界で活躍する女性研究者を支える環境づくり」



平成26年10月3日実施  
・テーマ:「世界で活躍する女性研究者の育成と支援 Vol.2  
～次世代のキャリア育成を考える～」  
・基調講演1「Beyond the Bias and Barriers～女性研究者支援「リーダー育成と基盤整備」次の段階に向けて～」大坪久子氏 日本大学 薬学部 薬学研究所 上席研究員(元日本大学総合科学研究所教授)  
・基調講演2「男性にとつてのワークライフバランスの意義」瀧美由喜氏 厚生労働省政策評価に関する有識者会議委員(東レ経営研究所 研究部長)  
・特別講演1「アステラスの次世代育成」小川有美子氏 アステラス製薬株式会社 研究本部研究統括部長  
・特別講演2「IBMのグローバルに活躍の場を拓く女性技術者」辻智氏 日本IBM株式会社 研究開発テクニカル・バイタリティー&ユニバーシティ・リレーションズ担当部長  
・特別講演3「JAXAの男女共同参画活動とつくば地域における連携」塩満典子氏 宇宙航空研究開発機構男女共同参画推進室室長  
・特別講演4「筑波大学の次世代キャリア育成」東照雄 筑波大学副学長  
・パネルディスカッション  
「女性研究者のリーダー層を育成するためには何が必要か」



## 「つくば女性研究者支援協議会」の設立

<p><b>活動の目的</b></p> <p>女性研究者が出産・子育て・介護などのライフイベントと研究の両立を図りながら、その能力を最大限発揮できるよう、女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援環境のさらなる向上に向けて、意識啓発・推進活動の連携を図ることを目的としています。</p>	<p><b>活動内容</b></p> <p>①参加機関の情報共有、事業の連携 ②女性研究者のワーク・ライフ・バランス支援活動 ③女性研究者のキャリア形成支援活動 ④各機関及び社会に向けた男女共同参画とダイバーシティ推進啓発活動</p> <p><b>参加機関</b></p> <p>筑波技術大学、筑波学院大学、茨城県立医療大学、アステラス製薬株式会社、株式会社エーザイ、株式会社日本IBM ほか</p>
<p><b>活動実績</b></p> <p>・つくば女性研究者支援協議会の開催(平成25年12月16日、平成26年1月27日、7月10日) ・シンポジウムの開催(平成26年2月19日、10月3日) ・セミナー、勉強会の開催 ・女性研究者ネットワークの構築</p>	<p><b>期待される効果</b></p> <p>・先進的な情報を得ることができます。 ・セミナー、講習会を合同で開催することができ、資源を共有化できます。 ・人的ネットワークによって新たな研究シーズを生み出すことができます。 ・男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスを進めている企業として、組織イメージが向上します。</p>

## H26年科学技術振興機構「女子中高生の理系進路支援プログラム」

発見しよう理系の魅力!繋がりよう理系仲間! in Tsukuba  
～ラボ実験合宿型、リケジョ養成プログラム～

日時 : 平成26年8月6日(木)13:00～平成26年8月8日(金)  
参加者:女子中高生107名(中学生56名、高校生51名)、保護者11名  
内容 : ・女性科学者のロールモデルと語ろう(ラウンドテーブルカフェ)  
・交流会、保護者セミナー「理系女子の将来」  
・1日サイエンス実験体験、藻類バイオマス・エネルギー大規模実証実験  
・次のリケジョ合宿を考える(中高生発表)



## 実績データ

筑波大学における女性研究者数・比率の推移

